

平成29年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
◆館の重点評価項目は、坂井輪図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：坂井輪図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
課題解決型図書館	◆全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・西区のレファレンス件数は18,187件で、前年比3.5%増加した。 ・職員のスキルアップのため、レファレンス研修に参加した。	・レファレンス事例を蓄積し、情報共有を図った。	3 大変評価する。 87.5% 2 ある程度評価する。 12.5% 1 評価できない。	・担当者の丁寧な対応がいつも気持ち良い。利用者に分かり易いよう窓口の名前を工夫したのも評価できる。 ・レファレンスは図書館の重要な機能であり、上向いているのは好ましい。レファレンスカアップのために職員研修を継続していることも評価できる。 ・3.5%増は大いに評価できる。
	◆館の重点評価項目 レファレンスサービスのPR	レファレンスサービスのPRに努める。	・坂井輪図書館では、レファレンスカウンターの標示を変更し、声を掛けやすい環境づくりに努めた。	・坂井輪図書館のレファレンスカウンターの標示を変更後、声を掛けていただく機会が増えた。 ・今後もより多くの方から図書館を活用してもらうために、レファレンスについての案内掲示やPR方法について検討し、随時、更新していく。	3 大変評価する。 87.5% 2 ある程度評価する。 12.5% 1 評価できない。	・レファレンスについて掲示を行い、PRを工夫していることが分かる。一般にまだ認知度は低いのでPRを継続することが必要。(例えばイメージしやすいように具体的な例やおもしろレファなどを示すなど) ・レファレンスカウンターの標示に関しては、他の自治体の例も参考にしてほしい。 ・レファレンス機能の向上に向けての積極的取組は評価できる。
特色ある地域づくり図書館	◆全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・坂井輪図書館では、新潟の芸術や新潟出身の作家など新潟県に関する展示を行った。 ・内野図書館では、内野出身の作家である藤沢周氏の展示コーナーを継続して設置した。 ・黒埼図書館では、山田慶二氏の絵画を継続して展示した。	・新潟に関連する展示を行うことで、郷土資料についてPRができた。また、利用者に郷土に関する知識を深めてもらうことができた。	3 大変評価する。 50.0% 2 ある程度評価する。 50.5% 1 評価できない。	・郷土資料は地味なので図書館の展示で知ることが多い。各図書館の展示は利用者の気づきにつながっている。 ・内野図書館、黒埼図書館の継続展示は理解できるが、坂井輪図書館の新潟関連展示は中央図書館に集約しても良いのではないかと。
	◆館の重点評価項目 郷土・行政資料の収集と整理	坂井輪図書館の郷土・行政資料を積極的に収集する。	・坂井輪図書館では郷土・行政資料を積極的に収集し、3,909冊から4,306冊に増加した。	・新潟に関連する新刊本の購入を積極的に行ったり、広報誌で行政資料や郷土資料の寄贈を呼び掛けたりしたことで、目標を達成することができた。	3 大変評価する。 87.5% 2 ある程度評価する。 12.5% 1 評価できない。	・学生や若い人が独自に作成するフリーペーパーなども貴重な郷土資料なので収集した方がよい。 ・図書館が郷土資料を積極的に収集、保存していることは大変評価できる。時々広報などで市民全体に知らせることも必要と思う。 ・郷土資料の寄贈の呼びかけなど積極的なPRは今後もお願いします。
子ども・社会・民衆融合型図書館	◆全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを全館に拡大し、うちどく(家読)を推進する。	・西区ではブックスタートを1,153人に実施した。(対象者数1,203人、実施率95.8%) ・赤ちゃんタイムは、西区3館すべてで実施している。また、坂井輪図書館では、全日2階一部フロアを子どもとみんなの広場として運用している。	・多くの方にブックスタートを実施することができ、乳幼児期の読書活動について広く働きかけることができた。 ・健診時に図書館のPRも行った。坂井輪図書館は健診会場から近い場所にあるため、健診後に図書館を利用される親子も多くいた。	3 大変評価する。 75.0% 2 ある程度評価する。 25.0% 1 評価できない。	・ブックスタートは子育て中の親子に個別に直接対応ができ、親子で図書館へ足を向けるきっかけになっている。市民の間に定着していて、親のフォローにもつながるので継続してほしい。 ・おはなしのじかんのスタンプカードは全市共通で良いと思う。 ・「うちどく」という言葉もイメージはまだ浸透していないので引き続きPRが必要。 ・絵本だけでなく本を読むことにつなげていくことが大事なので、親が子に昔話を読む、親子で同じ本を読む、大人が再度児童文学を読むなどいろいろなパターンを提示することも大事だと思う。 ・子ども時代の読書は本当に大切。学校等と連携して地域に良い流れを作してほしい。 ・成長しても継続的に図書館を親子で利用するよう、より強く働きかけてほしい。 ・ブックスタートは図書館の未来につながるものなので、なお一層の推進をお願いします。
	◆館の重点評価項目 子どもの読書環境の整備	・子どもや親子が図書館に来館することに抵抗をなくすため、子どもや親子対象の事業を行う。	・子どもや親子を対象した事業の参加者数は、3,530人から4,266人と20.8%増加した。 ・地域のイベントに参加し、本の貸出やしおりづくりを行い、子どもと保護者に図書館のPRを行った。	・館ごとにバラツキのあった数え方を全市統一したことにより目標を大きく上回る結果となった。 ・参加型イベントや小イベントは継続して実施し、参加してくれた子どもたちには、図書館の楽しさをPRできた。	3 大変評価する。 75.0% 2 ある程度評価する。 25.0% 1 評価できない。	・「謎解きは夜の図書館で」など従来にない参加型企画を考案し、ワクワク感があり、図書館を身近なものにしようという工夫が感じられる。 ・「西区で選ぶ直木賞」はやや分かりにくいようだ。 ・20.8%増という数値は大変評価できるものです。 ・実施率95.8%は立派な数値と判断されます。
市民参画と協働を推進する	◆全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・西区自治協主催の講演会等に「おでかけ図書館」として参加し、講演会の関連本の展示や本の貸出などを行った。 ・地域住民や大学、商店等と連携して「うちのキッズらんど」、「大人の絵本ライブ」などの事業を実施した。 ・共催、協働事業の実施件数は31件と昨年とほぼ同数であった。	・自治協議会主催の講演会には、関連本等の展示を毎年依頼されるようになり、地域とより良い関係が築かれている。	3 大変評価する。 87.5% 2 ある程度評価する。 12.5% 1 評価できない。	・自治協主催の講演会に関連本を展示するなど他団体とコミュニケーションが取れていると思う。 ・「うちのキッズらんど」は公民館や学生と連携し、地域の子どもたちが楽しめる企画として評価できる。 ・自治協主催講演会への「おでかけ図書館」は業務的には大変なことと思うが、高く評価できることだと思う。
	◆館の重点評価項目 民間団体等との連携	・新たな団体貸出制度を活用して、地域の中に図書館の本を置き、本を通じたコミュニケーションづくりを行う。	・坂井輪図書館で平成26年9月から始めた民間への団体貸出制度の実績を踏まえ、10月から全市で新たな団体貸出制度を始めることができた。	・坂井輪図書館で先行実施した民間への団体貸出モデル事業を参考に、どのようなテーマが好まれるかを集約し、中央図書館が用意するテーマ別セットの準備に関わった。	3 大変評価する。 62.5% 2 ある程度評価する。 12.5% 1 評価できない。 25.0%	・素晴らしい取組みなのに図書館関係者該当団体以外に知られていない。PRしても良いのではないかと。 ・団体貸出セットはコンパクトで使いやすいので、これからも利用は伸びると思う。 ・団体貸出制度はありがたいことだと思うが、モデル事業の時より絵本の選書にワクワク感や「さすが!」とうなずける絵本が届かないのが残念。希望と違う本が届いたり、絵本とはいえずシリーズ本に頼りすぎなどがっかりすることもある。先日の研修で糸貫先生もおっしゃっていたように司書の育成や資質向上は大切と感じた。